

《2026 年 1 月 限定サロン（通算 351 回）報告》

第 10 回 U-18 フットサルリーグ チャンピオンズカップの総括と今後

- 【日 時】2026 年 1 月 26 日（月）19：00～21：00 ⇒ 終了後はオンライン懇親会（～22：30）
【会 場】オンライン（Zoom）
【テーマ】第 10 回 U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップの総括と今後
【参加者（21 名）】◎は NPO 会員、○は会員外のファミリー、無印はファミリー外
・サロン 2002 ファミリー（含動画配信スタッフ）7 名
◎中塚義実(理事長)、◎本多克己(副理事長)、◎井上俊彦(上田市在住)、◎橘和徳(富山中部高校)、
◎茅野英一(元帝京大学)、○磯和明(くにたちエール)、早川幸秀(グリーンカード)
・後援・主管 3 名
近藤弘之(信州千曲観光局)、菅原基信・下條貴史(長野県フットサル連盟)
・出場チーム・各リーグ代表・フットサル関係者 11 名
荒川浩幸(北海道)、金子諭(FFC エストレーラ川口・埼玉)、原陽司(東京)、小倉勇(フウガドールすみだ)、
荻窪孝(東急 S レイエス)、大友洋介(神奈川・関東)、大多和幸(PROVA FUTSAL CLUB U-18)、
小坂博章(愛知・東海)、小曾根潮(京都・関西)、塚田直文(兵庫・関西)、井上誠(ヴィラノーバ水俣)、
【報告書作成】中塚義実

<目 次>

はじめに	3
I. 第10回大会を振り返って	3
1. 大会全体の総括	3
2. 決勝戦を振り返って	6
1) 試合前、2) 第1ピリオド、3) ハーフタイム～第2ピリオド、4) 心理的な側面、 5) 育成環境、6) 運営・審判	15
3. 大会全体を振り返って	15
1) 運営・審判、2) 宿泊・移動・観光	18
II. 10年間の成果と課題	18
1. 大会出場選手の動向	18
2. 各地域のリーグ環境	19

U-18 年代、U-18 フットサル、U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップ、U-18FLCC、10 周年、
千曲市、ことぶきアリーナ千曲、戸倉上山田温泉、決勝、東急 S レイエス、フウガドールすみだ、
ユースリーグ、リーグ戦、育成年代、サッカーとフットサル、小倉勇、荻窪孝、橘和徳、中塚義実

【概要（理事長より）】※1 月 13 日版

NPO サロン 2002 の中核事業の一つである「U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップ」が、1 月 10 日（土）～12 日（月祝）の 3 日間、長野県千曲市のことぶきアリーナ千曲で開かれました。「U-18 年代のレベルアップ」と「日常的なリーグ環境の整備」を目的として始まった大会です。10 回目の節目となる今大会も、toto 助成を受け、長野県フットサル連盟が主管し、全国から 16 チームと帯同審判が千曲市に集い、地元と連携を図りながら過ごしました。YouTube での動画配信を全試合行い、会場に来られない方にも U-18 年代のトップレベルのプレーを視聴していただきました。

第6回大会から4連覇を続けるフウガドールすみだ。第5回大会のペスカドーラ町田を含めると東京勢が5大会連続で優勝していましたが、東急Sレイエスが決勝でフウガを8-2で破り、神奈川勢としての初優勝を果たしました。

おめでとうございます。そしてありがとうございます。

U-18フットサルの10年間の進歩を感じるとともに、フットサルの楽しさと怖さが凝縮されたゲームだったと思います。

1月26日のオンラインミーティングは、以下の内容で進行する予定です。奮ってご参加ください。

1. 第10回大会を振り返って

- 1) 競技面の振り返り … 競技レベル、大会運営（含帯同審判）、その他
- 2) 互いの交流・千曲市との連携 … 「イベント」について、移動・宿泊、観光等
- 3) 出場チームからのコメント

2. 10年間の成果と課題一二つのねらいに即して

- 1) 「U-18年代のレベルアップ」の観点から … 歴代出場選手の動向など
- 2) 「日常的なリーグ環境の整備」の観点から … 各地域リーグの現状と今後

3. 今後に向けて

いくつかの参考資料があります。ご参考まで。

- ・サロン2002公開シンポジウム＜「ユース年代のサッカー」を語ろうーU-18フットサルリーグチャンピオンズカップの10周年を機に＞報告書 https://www.salon2002.net/src/pdf/symposium/2025_sympo-1.pdf
- ・U-18FLCCプロモーション映像（5分間） <https://www.salon2002.net/?p=2000>
- ・第10回大会の情報 <http://naganoff.jp/news/?p=2023>
- ・大会公式YouTube（出場チーム紹介もあり） <https://www.youtube.com/@salon2002>
- ・過去の大会情報 <https://www.u18futsalleague.jp/>



はじめに (中塚義実)

U-18 フットサルリーグの振り返りを、毎年大会終了後にこのような形で行っています。今日もさまざまな立場の方が来られています。10 回目となった大会を振り返っていききたいと思います。

主催する NPO 法人サロン 2002 理事長の中塚と申します。東京都サッカー協会のフットサル委員を 1995 年の委員会創設期よりずーっと続け、ユース部会長をさせてもらっています。筑波大附属高校の教員をずっとやっていましたが、去年の 3 月で退職し、NPO サロン 2002 に今まで以上に力を注いでいるところです。toto 助成をもらって我々の法人がかなり力を入れて取り組んでいるのが、U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップです。

I. 第 10 回大会を振り返って (中塚義実)

1. 大会全体の総括

◆代表者会議での「主催者挨拶」

代表者会議で見ていただいた挨拶文です。10 年前に始まった時は静岡県のエコパアリーナで 8 チーム、第 2 回は愛知県のオーシャンアリーナで 12 チームで開催されました。静岡県、愛知県の皆さん、本当にありがとうございます。第 3 回大会から長野県千曲市での開催です。

大会の趣旨は「U-18 年代のレベルアップ」と「日常的なリーグ環境の整備」です。とくにリーグ環境については、地域ごとに様々な課題を抱えながら、取り組んでおられます。のちほど情報交換したいと思います。得点王の賀川浩賞についても改めてご確認いただければと思います。

ご挨拶 ※代表者会議資料

10 回目となる U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップは、2017 年 1 月、静岡県エコパアリーナで 8 チームによる全国大会として産声を上げました。第 2 回は 12 チームが愛知県のオーシャンアリーナに集い、第 3 回から長野県千曲市のごとぶきアリーナ千曲での開催となりいまに至ります。創設期にご尽力くださった静岡・愛知の皆さま、そして長野誘致にご尽力された方々に改めて敬意を表します。

コロナ禍での開催となった第 4～7 回は 16 チームのノックアウト方式で、コロナ明けの第 8 回大会から 4 チーム×4 グループの総当たり戦から準決勝・決勝となるいまの形式となりました。3 日間の大会運営は負担が大きいものですが、toto の助成と多摩大学からの協賛、地元自治体や協会、メディア各社の後援をいただき開催することができます。主管の長野県フットサル連盟はじめ、大会をささえてくださる地元の皆さまに心より感謝申し上げます。審判員の帯同についても、各リーグのご理解をいただきました。ありがとうございます。

「U-18 年代のレベルアップ」と「日常的なリーグ環境の整備」が、この大会の当初からのねらいです。前者については、この大会、および各地域で U-18 リーグを経験した選手が次のカテゴリーで活躍する姿を通して知ることができます。10 周年を機に、各リーグからどのような選手が育ってきたのかを挙げていただき、10 年間の成果を「みえる化」したいと考えます。ご協力をお願いします。

後者については、地域に固有の課題があることから、全国一律に進展しているとは言い難い状況です。加えて全国的な課題、たとえば暑熱環境への対応、少子化の進行、働き方改革、あるいは「リーグ戦」の担い手不足など、ユース年代のサッカー、フットサルがともに抱える大きな課題があります。このあたりについて、11 月 23 日に開かれた NPO サロン 2002 公開シンポジウム「ユース年代のサッカー」を語ろう！ー U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップの 10 周年を機に」で改めて取り上げ、情報交換の場を設けました。報告書が NPO サロン 2002 の公式サイトにアップされていますので、この大会の紹介動画とともにご一読、ご視聴ください。

11/23 公開シンポ報告書 https://www.salon2002.net/src/pdf/symposium/2025_sympo-1.pdf

U-18 FLCC 紹介動画 (5 分間) <https://www.salon2002.net/?p=2000>

得点王にはこれからも「賀川浩賞」が授与されます。世界最高齢ジャーナリストとして FIFA 会長賞を受賞された賀川浩さんは、サッカーやフットサルを「まるいもんをゴールに入れるだけの単純な、おもしろい“遊び”」と言っておられました。“遊び心”を原点に置きながら、これからも地道な取り組みを重ねてまいりたいと存じます。

大会に携わるすべての人が、U-18 フットサルを思う存分楽しみ、千曲市を堪能していただくことを願います。そして大会後も、それぞれの地元で、健康・安全で“ゆたかなくらし”が展開されることを、心より願います。

令和 7 (2026) 年 12 月 27 日
特定非営利活動法人サロン 2002
理事長 中塚 義実

◆第 10 回大会全体を振り返って

大会の様子を写真でみていきたいと思います。

初日の朝 7 時 30 分ごろ、武田信玄も上杉謙信もお参りしたという由緒正しき武水別神社に、安全祈願のお参りに行きました。毎年恒例です。

並行して会場では準備が進められています。

今大会は全国の 13 リーグから 16 チームが集まりました。4 チームずつ 4 グループに分かれて初日・2 日目と総当たり戦をやり、3 日目はグループ 1 位同士の準決勝、そして決勝です。準決勝に残れなかったチームも交流戦があり、3 日目も全チームが試合ができるようにしています。

初日、2 日目とも、全チームがそろうタイミングで「イベント」の時間を設けています。開会セレモニーでは、千曲市からのご挨拶に続き、出場チームから上限 90 秒の自己 PR です。泊っている宿はどこかを言ってもらうようにしています。千曲市の文化紹介では、今年は「冠着太鼓」を披露してくれました。開催地を知ってもらうよい機会になっています。

ベスト 4 はすべて関東勢です。準決勝は、フウガと浦安は 1-1 で PK 戦、神奈川対決となったもう一つの準決勝も 3-2 と、どちらが勝つかわからない、本当に拮抗した、質の高い準決勝でした。

勝ち上がった 2 チームは、大会 4 連覇中のフウガドールすみだファルコンズと、神奈川県東急 S レイエスです。神奈川も東京とともに早い段階からリーグ戦を行ってきましたが、なぜか優勝ありません。戦力も充実している今回は、期するところがあったのではないかと思います。

決勝戦はすごい試合でした。前半が終わって 4-0 でレイエスがリード。誰も予想できないような展開です。後半

第10回U-18フットサルリーグチャンピオンズカップ

	Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ
1	フウガすみだ (東京)	SBFCDンリーナ (神奈川)	東急Sレイエス (関東 神奈川)	PESCADOLA 町田 (東京)
2	ワイノールパネ (熊本)	B3-SPIRITS (長野)	富山中野	VIENTO U-18 (富山)
3	正徳深谷 (埼玉)	神戸ハーバー (兵庫)	gatt2008 (京都)	名古屋オーシャンズ (愛知)
4	VALIENTE (北海道)	バルドラール浦安 (千葉)	PROVA (静岡)	YSCC横浜 (神奈川)

北海道、関東、埼玉、東京(2)、神奈川(2)、千葉、長野、富山(2)、静岡、愛知、京都、兵庫、熊本

大会最終日(1月12日)

			A ピッチ		B ピッチ		
1/12	交流戦	9:00	25	A4位	-	B4位	26
	準決勝	10:30	27	A1位	-	B1位	28
	交流戦	12:00	29	A3位	-	B3位	30
	交流戦	13:30	31	A2位	-	B2位	32
	決勝	15:00					33
						M27勝者	-
						M28勝者	

YouTubeで全試合のライブ配信を行います

日付	時刻	対戦	A ピッチ	対戦	B ピッチ	対戦
1/10	10:00	1	フウガすみだ (東京)	-	ワイノールパネ (熊本)	2
	11:30	3	SBFCDンリーナ (神奈川)	-	B3-SPIRITS (長野)	4
	13:00	5	東急Sレイエス (関東 神奈川)	-	富山中野	6
	14:00	イベント1: 開会セレモニー/各チーム紹介				
	15:00	7	PESCADOLA 町田 (東京)	-	VIENTO U-18 (富山)	8
	16:30	9	フウガすみだ (東京)	-	VALIENTE (北海道)	10
	18:00	11	SBFCDンリーナ (神奈川)	-	バルドラール浦安 (千葉)	12
	9:00	13	東急Sレイエス (関東 神奈川)	-	PROVA (静岡)	14
	10:30	15	PESCADOLA 町田 (東京)	-	YSCC横浜 (神奈川)	16
	12:00	17	正徳深谷 (埼玉)	-	フウガすみだ (東京)	18
1/11	13:00	イベント2: 千曲市の文化紹介(冠着太鼓等)				
	14:00	19	神戸ハーバー (兵庫)	-	SBFCDンリーナ (神奈川)	20
	15:30	21	gatt2008 (京都)	-	東急Sレイエス (関東 神奈川)	22
	17:00	23	名古屋オーシャンズ (愛知)	-	PESCADOLA 町田 (東京)	24
				-	YSCC横浜 (神奈川)	
				-	VIENTO U-18(富山)	



は、日本代表のサポートメンバーにも入ったすみだ 7 番の行木選手が GK のユニフォームを着てパワープレイを試みる時間が長かったのですが、終わってみると 8-2。信じられないようなスコアで東急 S レイエス初優勝を果たしました。これまで U-18 年代の試合をたくさん見てきていますが、ベスト 3 に入るぐらいのすごい試合で、フットサル初心者にもぜひ見てもらいたいゲームです。

過去 10 回を振り返ってみると、第 1 回から第 4 回まではいろんなチーム、地域が優勝していますが、第 5 回大会からは東京勢が連続優勝。直近の 4 回はフウガが優勝です。JFA 全日本 U-18 選手権も 3 連覇中だったので、東急 S レイエスの優勝は歴史的な、大きな節目となったと言えるでしょう。

全国的なメディアでは取り上げられませんが、地元の信濃毎日新聞では右の記事が出ました。フウガの主将、片岡選手のインタビューでは「上山田の旅館がとてもよかった」ことが語られています。片岡くんは帯同審判員としても活躍しました。



信濃毎日新聞 東北信版 2026 年 1 月 13 日

U-18 フットサルリーグ チャンピオンズカップ	
第1回 2017年 1月6日⑤、7日⑥	エコバアリーナ (静岡県) 8チーム 優勝: HeroFC U18F (静岡県)
第2回 2018年 1月6日⑤、7日⑥	武田パオアリーナ (愛知県) 12チーム 優勝: SANTOS FC18 (愛知県)
第3回 2019年 1月5日⑤、6日⑥	ことぶきアリーナ千曲 (長野県) 12チーム 優勝: 京都橘高等学校 (京都府)
第4回 2020年 1月4日⑤、5日⑥	ことぶきアリーナ千曲 (長野県) 16チーム 優勝: シュライカー大阪 U-18 (大阪府)
第5回 2021年 1月9日⑤、10日⑥	ことぶきアリーナ千曲 (長野県) 16チーム 優勝: ベスカドーラ町田U-18 (東京都)
第6回 2022年 1月8日⑤、9日⑥	ことぶきアリーナ千曲 (長野県) 16チーム 優勝: フウガドールすみだファルコンズ (東京都)
第7回 2023年 1月7日⑤、8日⑥	ことぶきアリーナ千曲 (長野県) 16チーム 優勝: フウガドールすみだファルコンズ (東京都)
第8回 2024年 1月6日⑤～8日⑥	ことぶきアリーナ千曲 (長野県) 16チーム 優勝: フウガドールすみだファルコンズ (東京都)
第9回 2025年 1月11日⑤～13日⑥	ことぶきアリーナ千曲 (長野県) 16チーム 優勝: フウガドールすみだファルコンズ (東京都)
第10回 2026年 1月10日⑤～12日⑥	ことぶきアリーナ千曲 (長野県) 16チーム 優勝: 東急SレイエスFCフットサルU-18 (神奈川県)



「賀川浩賞(得点王)」は、10 点を挙げた両チーム主将。

片岡幸村(左)と葛島欽咲(右)

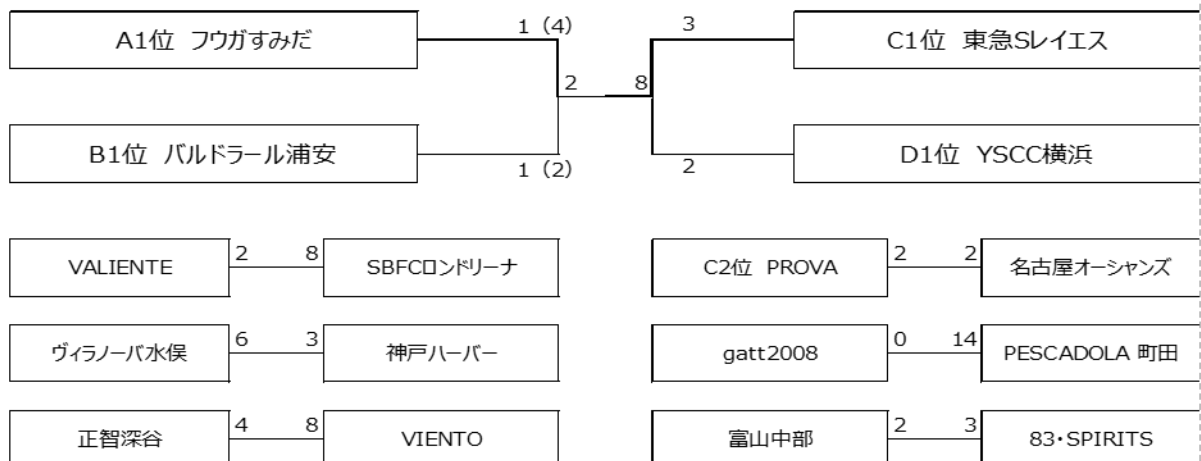
第10回U-18フットサルリーグチャンピオンズカップ

Aグループ	1	2	3	4	勝点	勝	引	敗	得点	失点	得失点	順位
1 フウガすみだ		13 ○ 0	14 ○ 1	6 ○ 2	9	3	0	0	33	3	30	1
2 ヴィラノーバ水俣	0 × 13		6 ○ 1	2 × 6	3	1	0	2	8	20	-12	3
3 正智深谷	1 × 14	1 × 6		2 × 3	0	0	0	3	4	23	-19	4
4 VALIENTE	2 × 6	6 ○ 2	3 ○ 2		6	2	0	1	11	10	1	2

Bグループ	1	2	3	4	勝点	勝	引	敗	得点	失点	得失点	順位
1 SBFCコンドリーナ		5 ○ 1	4 ○ 3	0 × 6	6	2	0	1	9	10	-1	2
2 83・SPIRITS	1 × 5		3 × 7	5 ○ 3	3	1	0	2	9	15	-6	4
3 神戸ハーバー	3 × 4	7 ○ 3		0 × 5	3	1	0	2	10	12	-2	3
4 バルドラル浦安	6 ○ 0	3 × 5	5 ○ 0		6	2	0	1	14	5	9	1

Cグループ	1	2	3	4	勝点	勝	引	敗	得点	失点	得失点	順位
1 東急スレイエス		9 ○ 1	7 ○ 1	6 ○ 0	9	3	0	0	22	2	20	1
2 富山中部	1 × 9		0 × 3	0 × 3	0	0	0	3	1	15	-14	4
3 gatt2008	1 × 7	3 ○ 0		2 × 5	3	1	0	2	6	12	-6	3
4 PROVA	0 × 6	3 ○ 0	5 ○ 2		6	2	0	1	8	8	0	2

Dグループ	1	2	3	4	勝点	勝	引	敗	得点	失点	得失点	順位
1 PESCADOLA 町田		9 ○ 5	1 △ 1	3 × 5	4	1	1	1	13	11	2	3
2 VIENTO	5 × 9		1 × 5	4 × 9	0	0	0	3	10	23	-13	4
3 名古屋オーシャンズ	1 △ 1	5 ○ 1		3 × 4	4	1	1	1	9	6	3	2
4 YSCC横浜	5 ○ 3	9 ○ 4	4 ○ 3		9	3	0	0	18	10	8	1



2. 決勝戦を振り返って

1) 試合前

中塚：決勝の両監督がいらっしゃいます。決勝を実況中継された橘さんもいらっしゃいます。荻窪さんが8時過ぎに退席されるので、まず決勝戦の振り返りからいきましょう。レイエスの荻窪さんとフウガの小倉さんに、まずは試合前のところから。どんな思いで臨んだのかをお願いします。

荻窪：皆さんこんばんは。仕事の関係でちょっと早く上がらせていただきます。申し訳ありません。

先ほど中塚さんも言ってましたけど、まさかこんな試合になるとは思ってなかったです。試合前は正直、準決勝での YSCC さんと戦って、チーム状況というか雰囲気は良くなかったんです。なので、どういうセット構成で戦うのかなど、高 3 のメンバーが 3 人いたんですけど、彼らと少し話し合っ
て、どういうふうに関勝を戦うのかをすり合わせて臨みました。最後厳しい状況になったら人数を絞
って戦うことは話しました。予想では 2-1 とか 3-2。3 点ぐらい入れればいいなという展開を予想してい
たので、自分たちのいいところばかり出た試合になってくれたなというのが本心ですね。

中塚：ありがとうございます。一方の小倉さん、どうでしょうか。

小倉：こんばんは。フウガドルすみだの小倉です。我々は幸いにも、いろんな大会で決勝戦まで行
かせていただく機会が多いので、特別に何かするということはありません。ただ荻窪さんはじめ、
レイエスの方には関わってる方が非常に多いので、決勝戦でレイエスとやれて、心の中では、選手た
ちもそうだと思うんですけど、すごく嬉しかったというのがありました。試合前に関してはそういつ
たところですかね。

中塚：今シーズンは両チーム、関東リーグ等ですでに何度か対戦しているんですよね。どんなゲーム
だったんですか。

荻窪：JFA の選手権、関東大会の決勝で、7-7 で PK 戦になったのがありました。

小倉：関東大会の決勝戦ですね。関東のリーグ戦では別ブロックだったので対戦していません。

荻窪：関東の決勝がすごい試合だったんで。そういう試合を僕は描いてましたね。足がつる選手が出
てくるような。

中塚：なるほど。では、実況をされていた橘さんの準備が整ったようです。橘さんから両監督に、質
問や感想をお願いします。

2) 第 1 ピリオド

橘：ものすごい試合を実況させていただき、解説の多摩大学・福角有紘さんとも「楽しくてしょう
がない」という感じで、1 時間喋りっぱなしでした。

毎年福角さんとは準決勝を見ながら、決勝戦に向けてどんなゲームになるかという打ち合わせや練
習をしていました。4~5 回目になります。しかし今回は私もチーム指導があり、福角さんも他の方と
お話しされていて、開始直前まで打ち合わせができないまま話し始めた感じでした。両チームとも昨
年の大会からおなじみの選手たちでしたし、レイエスさんとは初戦で対戦したこともあるので名前も
覚えています。そういうところを情報としてお伝えしながら、両監督の心情や、どういう戦術をする
のかを想像しながら福角さんと話をさせていただきました。

予想外にレイエスさんが先制し、2 点目を取っていくという展開で、タイムアウトのカードが出るだ
ろうなと感じていたところで小倉さんがカードを切りました。まずそのあたり、どんな感じだったの
かをお伺いできればと思います。

小倉：まさにその通りです。もしかしたら、先ほどお話しした「普段通り」というのが、レイエス
さんの入りが非常に良かったのでゲームが壊れてしまう。実際に前半は無得点だったので、早い段階で
流れを止めたいという思いからタイムアウトを取りました。

橘：その時の選手の様子はどうだったんでしょう。

小倉：うまくいかないことは日常の練習の中ではあるんですけど、ゲームだとここ近年、うまくいく回数が多いので、そこに対して気にしてる場所があったのは、選手たちの表情から見て取れる印象でした。

橘：勝ち続けてきたチームが逆境に立たされた時にどういう跳ね返し方をするのかということも、試合を見てワクワクしながら話させていただいたのを覚えています。

逆に荻窪さんにお伺いしたいのは、私のチーム、富山中部高校がグループリーグ緒戦で試合をさせていただいた時と、チームのギアが2段階、3段階は違うなと感じました。この大会を5試合戦う意識で、1試合のゲームプランではなく、大会を戦い抜くプランを持ちながら決勝戦を迎えられたと思いますが、そのあたりのことを教えていただければと思います。

荻窪：そうですね。フィールドは9人しかいなかったもので、3年生と1年生を混ぜたセットで基本は戦っていて、勝負どころの時間帯では3年生と、1年生の中で戦える選手を数名入れて、5〜6人に絞って戦うことを想定してずっとやっていました。1次ラウンドからずっといい展開で試合を進めることができていたので、基本的には絞って戦うことはしませんでした。準決勝は絞った時間が後半にありましたが、それまでは体力温存というか、溜めながら決勝に臨めたので、流れとしてはすごく良かったと思います。

橘：逆にすみだの小倉さんは、準決勝でPK戦まで戦われて、どういう心理状況で選手は決勝戦に臨んでいたのでしょうか。試合前のところを教えていただければと思います。

小倉：他のカテゴリーとの兼ね合いで12月がぎっしり詰まっていて、年末年始はしっかり休んだところで、年明けにトレーニングが3回しかできない状況でした。点差をつけて1次ラウンドは勝てていましたが、内容としては、夏のJFA大会のときと比べるとパフォーマンスは高くなかったです。決勝まで行ければ、最後は気持ちの部分でいいゲームができるんじゃないかということはありませんが、ただ決勝戦まで行くと、レイエスさんの方が明らかにモチベーションが高い印象があったので、そのプランニングに関してうまくいかなかったというのが自分自身の反省と振り返りです。

橘：ゲームの中でいうと、やはりレイエスのゴレイロがものすごく当たっていて、シュートを止めまくるところが、福角さんと見ていてとても目につきました。ゴールキーパーの状態はどうだったんでしょうか。

荻窪：できすぎですね。先制した後に1回、センターレーン、自陣の10mぐらいのところで反転シュートを食らい、股の間を通りそうだったのがギリギリコースが変わったシーンがあったんですけど、正直あれが入っていたら同点だったので、そこを止められたのがこのゲームの一番のポイントだったと個人的には思ってます。

橘：彼のゲームに臨む意気込みみたいなのは感じておられました？ 試合前に。

荻窪：意気込みは普段と変わらなかったのですが、準決勝のYSCC戦で前半3-0から後半巻き返されるような展開となって良くなかったので、決勝前に僕、尻叩くようなミーティングをしたんです。そ

こでちょっとまとまってくれたというか、手応えはあったので、みんな闘う表情でまとまれたと思います。その中で先制ゴールを奪えて、あのビッグセーブがあったというのが、試合を決めるぐらいのプレーだったかなと、あとから考えるとと思いました。

3) ハーフタイム～第2ピリオド

橘：では小倉さん、点差をつけられた中でのハーフタイムです。これまで、準決勝まではなかったと思いますが、ハーフタイムのミーティングをアリーナの外に出てされました。こちらからは何をされていたのかわからなかったもので、教えていただければと思います。

小倉：ちょうど我々のベンチの上にレイエスさんのサポーターがいました。僕自身、選手権とかいろんな大会で、自分自身の選手経験でも、人の目に触れるのがどうしてもストレスを感じるのがありました。それと、どうしても厳しい言い方、特にゼロの状況だったので、早い時間に点が取れなかったらパワープレイをせざるを得ない状況となってしまったので、それに対するマインドセット、戦術的な話を外でしてから戻ってきたというところです。

橘：今大会はハーフタイムが5分という中で、伝えられる内容も限られていたと思うんですが、運営側へのリクエストとなるのか、10分あったら変わってましたか？

小倉：いや、僕は時間は気にしません。5分しかないのであれば5分で伝えることを選ばなきゃいけないのが指導者の仕事だと思います。実際タイムアウトの活用の仕方は、我々指導者がフットサルに関わる上で学ばなきゃいけないことだと思います。逆に10分あったら、あの環境だと体が冷えてパフォーマンスが低くなるだけなので、僕は5分で十分だと思います。

橘：わかりました。荻窪さん、パワープレイを仕掛けてくることは想定されていたと思うんですが、その辺、第2ピリオドに入るまでにどのようなミーティングをされたんですか？

荻窪：早い段階からキーパー攻撃かパワープレイをやってくるというのは想定していました。選手権の関東大会でパワープレイは受けていたので、その時どういうものを受けたのかというところを一度確認したというところと、自分たちもパワープレイはパターンを持ってるんですけど、どういうパターンで来るかみたいなのは色々想定していて、時間帯によっては、受けるだけではなくてプレスに行くという指示を出すかもしれないから、そういう時はこういうふうにかけるよ、というところまではある程度想定していました。

橘：ありがとうございます。まさに相手のゴレイロの代わり目がゲームの分かれ目だったかなと思います。クリアランスの際に前からプレスをかけるのも明確に見えていて、まさにそういうタイミングでボールを奪って有利に進めていたと思いますし、相手のゴレイロがキックインの時に交代するタイミングでパワープレイ返しが起こったのも、お互いの思いが交錯した場面だったと思います。

荻窪：5点目ですね。ただあんなものは、練習でも出てなかったんですよ。あと、コートが20m×40mだったら入ってないかもしれませんね。コートが狭かったので、ワンバンで届いたというのもあります。コートサイズも自分たちに味方してくれたかなというのもあります。

4) 心理的な側面

荻窪：僕はちょっと小倉、オグに聞きたいんだけど、この数年0-3ってあった？ 3点差開いたこと。

小倉：ないですね。

荻窪：ないよね。

小倉：僕が 3 年間関わった中でこんなに点数が離れたのは、それこそ今年の夏にトップチームとやった 1 回だけぐらいです。こんなに点数が離れたことは、僕が関わってから一度もないですね。

荻窪：そうだよな。だから後半どうしてくるのかについては、逆に選手に詰め込んだんじゃないかな。

小倉：心の中というか、僕らの現状として、チーム全員で一緒に練習できたのが、夏以降ほぼない状況です。なおかつパワープレイとなると専門性を持った選手が必要になりますが、その選手たちがいないという状況が起こっていました。交代のミスということがありましたが、夏の選手権までであれば、トレーニングの中でやっていましたが、今回は 2 年生のキーパーを僕が出したかったということと、交代のトレーニングがどれぐらいできていたのかというと難しいところがありました。日本一を賭ける大事なゲームという状況において、そこに対するプランが必要だったというところは、僕らの振り返りとしてありますね。

荻窪：パワープレイを受けててちょっと感じたところですね。思ったより脅威な感じがあまりなく、探りながらボールを回してるなという感じが強かったので、どうなんだろうって…。

小倉：メンバー構成と攻撃のアクションの意図というところで選手たちも戸惑っていましたね。だから途中で代えながらやるところがどうしても必要になりました。簡単ではないですし、キーパーのパフォーマンスが良かったというのもあるので。点数が離れてしまった要因なのかなとは思いますが。

荻窪：ベンチで修正してたってことよね。

小倉：そうですね。15 分の中でいうと、交代を活用しながらメンバーが誰か入れ替わる時にはやらなきゃいけないですし、キーパー攻撃に変えることも選択肢にはあったんですけど、15 分という限られた中では決して簡単ではないところだったとも思います。

橘：中塚理事長、この話をしているとたぶんあと 2 時間ぐらいかかるんですが、どこで切ればいいですか？

中塚：面白すぎてこのままずっと聞いていたいなと、ここにいる人は皆思っていると思います。お互いにとっても、荻窪さんから小倉さんに質問があったように、あの試合をどう捉えて何をしたのかというのは、指導者として知りたいところです。

そうは言っても、荻窪さんが 8 時までしかいられない状況でもありますし、他の方のコメントもお聞きしたいと思います。もう少しこの決勝戦にフォーカスして、東京の原さんと神奈川の太田さんから、感想なり補足なり、コメントいただけないでしょうか。

東京の原さんは、フウガの選手が子どもの頃からずっと近くで見てこられた方で、いまは東京都リーグの運営委員長。東京都サッカー協会フットサル委員会ユース部会メンバーとしても、一緒にやっ

てもらっている方です。この決勝戦の日が東京都ユース（U-15、U-18）フェスティバルの初日と重なり、都内の会場で運営しながら観戦していたと聞いてます。原さんどうでしょうか。

5) 育成環境

原：いま中塚さんが言われたように、フウガの選手は小学生の、小さい頃から知っている選手ばかりです。よくここまで成長してくれたなという親心で試合を見ていました。荻窪さんも、彼らの小さい時に指導をしているんです。なので、荻窪君はどういう気持ちでいたのかな、というところも聞いてみたいと思います。どうだったんでしょうか。

荻窪：僕はこの 3 年間、ずっとフウガに、小倉に勝てなかったんで、終わった時には「1 回ぐらいいいでしょ」って言いました。ずっと負けてるんで。

原：選手たちの話を聞くと、やっぱオギとできるのはすごく楽しみにしていて、レイエスとやりたいね、というようなことを言っていたんで、本当に決勝という場でできたのは素晴らしいなと思っています。JFA 選手権でも全国 3 連覇しているフウガドルすみだは実力があるし、積み重ねがあって強いだろうなと。そこにレイエスが立ち向かうという構図で見ていたんです。フウガちょっと勝ちすぎてたんじゃないかなという気もしなくはないんです。モチベーション的にも、最後もっと悔しがれよ、負けたんだから、というような気持ちが、見ていて思ったところです。

オグ、どんな感じだった？ 選手たちの試合が終わったあとの感じ。映像だけではちょっとよくわからなかったんだけど。

小倉：そうですね、悔しがってはいるものの、複雑な感情があったのではないのでしょうか。選手には非常に申し訳ないですが、僕自身退任することが決まっていて、じゃあ次は誰が新しい監督やるのかとか、目に見えない大人の事情がいろいろ絡んでいた感じですね。彼らはトップチームにも関わっていて、F リーグの厳しい環境の中でストレスを感じながらプレーしている選手も、中にはいます。ついていくのが必死で、一生懸命になっている子がいるとか、いろんな要因がありました。負けたこともいつかはプラスになるだろうとか、ホッとしたという言い方か、ちょっとわからないですけど、勝ち続けることのプレッシャーはあったと思います。特に選手権やこの大会の連覇は、何年もかかっていることです。彼らは当たり前のように振る舞ってくれてはいるものの、心の中ではプレッシャーがあったのは事実だと思います。複雑な感情だったんじゃないかなというのが率直なところですね。

原：そうだと思います。やっぱり選手のメンタル的なところが大きく出た試合だったんじゃないかなと思っています。

中塚：ありがとうございます。子どもの頃から見ていたということでは、ペスカドーラ町田の北隅さんもフウガの育成で、あの子たちが子どもの頃から見ていたんですよね。そういう意味では、フウガから指導者もたくさん育っているということを改めて感じています。

大友さん、神奈川勢初優勝です。大友さんから一言お願いします。

大友：振り返ると、第 1 回大会は神奈川は準優勝だったんです。伊久間さんがロンドリーナの監督をやっていて。当時、東京のフットボウズがすごく強くて、この 2 チームが決勝戦うんじゃないかと。1 次ラウンドから圧倒的な感じで勝ち進んでいったんですけど、選手権と同じく、サッカーの上手な子たち、特にあの時は聖和学園や HERO が試合を重ねることにだんだん強くなっていき、第 1 回大会は HERO FC に初制覇を持っていきました。その後も、ロンドリーナやレイエスが準優勝までは行きました

たけど決勝では負け続け、10 回目の節目でやっとです。100 年続かなくてよかったなというぐらいの印象ですね。

ちょうど原さんや荻窪さん、小倉さんが、子どもの頃からということをおっしゃられました。神奈川もコロナ禍で、23 チームが 14 チームまで減ってしまい、半減した時期がありました。いままた 18 チーム、次年度は 20 チームぐらいの見込みで運営していますが、先ほど荻窪さんが言っていた 3 年生、葛島欽咲、大西塁、小林碧の 3 人は、中学 1 年からリーグ参加しています。実に 6 年目です。年間を通してフットサルを活動しているチームにとっての最高峰のこの大会と選手権が、すごく大きな大会であり目標です。一方で、チームによっては 3 月から 8 月の短期の活動でしかないのですが、U-18 リーグチャンピオンズカップは年間を通してフットサルをプレーしている選手たちにとっての大きな目標になる大会ということでこの 10 年、続けていただいております。

いま言った大西塁たちも、高 1 で初出場したのかな。そして今回 3 度目で優勝。ただ彼らは高 1 の時点で全国レベルの力をつけていたし、また中学年のときには JFA 全日本 U-15 選手権で準優勝を取ったりしています。今年の夏の U-18 選手権も優勝する力を持った子たちが、下を向くことなく、夏の選手権が終わった後にすぐ「次は冬のちーちゃんだ」と。選手たちはこう呼んでるんですが、冬のリーグチャンピオンズカップの優勝に向けてすぐ動き出しました。このことが、どれだけ優秀な選手を育てているかというのが重要だと思います。

フウガやペスカドーラはトップチームもあって、関東リーグの中に選手を出場させながら育てることも可能です。例えばレイエスにはフットサルのトップチームは、いまはありません。大人に交じって戦うことはあっても、まずはこの年代での日本一を目指すという意気込みが、今回の結果につながっているのではないかと感じております。

中塚：ありがとうございます。決勝絡みの話は 8 時ごろまでで終えたいんですが、ここまでの話を聞いてみて、こういうことも聞いてみたい、あるいはそれぞれ感じたことなどご発言いただけたらと思います。いかがでしょうか。

6) 運営・審判

中塚：では運営の立場からということで、ネット問題がありましたよね。準決勝までは 2 面でやっていたので、間にネットを張っているわけですが、決勝戦のときは 1 面になるので、映像の都合もあってネットを開けてもらうという合意で、下條さん、動いていましたよね。

下條：そうですね。映像の見え方もあるのでネットを外しましょうということで外したんですが、チーム側からすれば今までと環境が違ってくるので同じ方がいいということで、最終的には戻しました。両チームはどのように感じたのかを運営側としては聞いてみたいところです。来年度の決勝戦でネットを外すのか外さないのか。特に問題ないとか、最初からそういうつもりでいけば問題ないのであれば、要項に入れようと話をしていました。両チームの監督さんに聞いてみたいところです。

中塚：両チーム監督の前に、グリーンカードの早川さんが来られています。映像制作の観点から、ネットがあるのとないのとでどう違うのかをコメントしてもらえますか。

早川：グリーンカードの早川と申します。配信の方で関わらせてもらっています。ネットがあると、選手に寄った時にネットが見えてしまい、視覚的によろしくないというのがあります。今後、もっと配信を盛り上げていこう、いいものを作っていこうとなった時に、例えばピッチレベルでカメラを 1 台下ろして撮影することも考えると、こちらとしてはネットがない方が動きやすいので助かる場所ではあります。

中塚：というように、配信側の事情もありますが、実際にプレーする側の、オンザピッチの監督としての率直なコメントを、荻窪さん、小倉さんの順にお願いします。

荻窪：僕は始まる前にネットを開けているのを見ていたので、ボールを拾うのが大変そうだなと一瞬思ったんですけど、また閉じられたんで変わんないのかという感じで、そこにストレスを感じることはないとは思いました。

希望というか、やり方としては、最初に決勝のピッチを作っておいて消しテープを貼り、決勝になったら剥がして 2 面ぶち抜いたところに 1 面作る方法があるのかなとは思いました。でも。同じサイズで決勝も戦うところには、文句というか、そういうものは特にありません。

小倉：すみません。運営の方がネットを開けられていたので「閉めてもらえますか」と、僕が伝えました。理由としては、環境が変わって奥行きが、先ほど荻窪さんが言っていたように、ボールを拾いに行くというか、ベンチ側にいた時の距離感がわからなくなった。選手たちもウォーミングアップしてるときにわかりにくいというのがありました。仮にあの環境のままでやるのであれば、防球フェンスがあれば、タッチラインがどこにあるのかがある程度わかります。

あと荻窪さんがおっしゃったように、例えば全日本選手権やバーモントカップでは、先に決勝戦のピッチを下に引いてあります。僕らが求めるレベル感のゲームをするのであれば、20m×40m のフルピッチでやっていただければと思います。運営の負担が大きくなるのは重々承知の上ではありますが、選手たちのモチベーション的にもありがたいです。今回から音楽に合わせて入場することもありました。いままではなかったことですよね。そういう環境を運営の方でも工夫されて提供していただいていることを理解し、ありがたく思っています。大会自体をより良くしていくためにも、競技レベルを上げていくこととあわせて、運営側でも検討していただけるとありがたいなと個人的には思います

中塚：下條さん、菅原さんからどうですか。実は決勝戦を 1 面でというのは、千曲でやり始めた最初の頃はやってましたよね。スケジュール的にもっと余裕があった頃だと思うんですけど。

下條：そうですね、最初の時は確かにやってました。確か準決勝が終わってから、改めて引いたような記憶があります。前日準備も結構ギリギリになっているので、事前に 1 面引ける人数がこちらの方で用意できるかというところですね。決勝だけでも 20m×40m でやった方がいいというのはわかりますので、人員確保も含めて、運営の方でも検討をしていきたいと思っています。

決勝の入場に関しても、今回は雰囲気作りを含めて、決勝の MCM が終わってから私の方で、できないかなということを提案させてもらいました。YouTube 配信があるので、音源は著作権に抵触しないように、曲を選んで流したところです。ちょっとバタバタで、握手のあたりまで音楽流して雰囲気作りができたならよかったなというのが反省点です。入場のところは、選手のモチベーションにつながるのであれば、今回やってみてよかったかなと思っています。

菅原：1 面分、決勝のピッチをあらかじめ作っておくのは、長野オープンでもやっていました。マスキングテープでかぶせてということですが、どうしても剥がすときに下のラインも一緒に剥がれたりして、かえって支障が出て時間がかかります。だから長野オープンでも、いまは 2 面のうち片面を使って決勝を行うようにしています。今のスケジュールだと、決勝の前にあまり時間を取るのとはどうなのかなというところです。またピッチサイズが変わると、それまでやってきた状況と異なるので、同じサイズで決勝戦をやっていただく方が、選手もパフォーマンスを出しやすいのではと思っています。

参加チームの皆さんの意見を聞いて相談しながら、スケジュール的に可能であれば対応はしていきたいと思いますが、費用的にも人員的にもかなりかかってしまうというところです。

中塚：ということで、引き続き検討させていただきますが、どちらに転ぶかわからないというところ
です。荻窪さん、そろそろお時間ですかね。では最後に一言。優勝の喜びなど。

荻窪：本当にこの大会があることによって、選手もですけど指導者も、モチベーション高く、1 年間フットサルを楽しむことができるので、本当に素晴らしい大会だなと思っております。

私事ですけど、今年度で東急 S レイエスを離れることになっており、それを選手たちもわかってたんで、レイエスがまとまったというのもあると思うんです。来年、私は参加することができませんけど、チームは参加してくれることを願います。引き続きこのような活動を続けていただけたら本当にありがたいと思います。ぜひ皆さんのお力で継続していただけるようよろしくお願いいたします。

3 年間ありがとうございました。

中塚：どうもありがとうございました。おめでとうございました。

ではここから決勝戦以外の、決勝に戻っても構わないんですけど、他にもいろんな観点がありますので、その辺の話をしていきたいなと思います。

荒川：一ついいですか。北海道の荒川です。決勝戦の戦い方は、お二人の話ですごく伝わってきましたけど、この大会って帯同審判制じゃないですか。決勝戦のレフェリングや判定基準について、これだけ激しい戦いにマッチされていたのかどうかも、少し聞けたらいいなと思って発言しました。

中塚：では両チーム監督からお願いします。

荻窪：審判さんについてということですよ。実は審判さんと試合中も会話してたんですけど、1 回パワープレイでキーパーの選手がドリブルで僕らの方に入ってきて自陣に戻ったシーンがあるんです。それもルール上は OK だったらしいんです。でも審判さんの中でもそこを理解してなくて吹いちゃう審判の方もいるんです、というのも試合が終わった後にお話させていただいたりしました。そういうところまで、試合中も試合後もコミュニケーションを取っていただき納得できているので、とても素晴らしいジャッジをしていただいたと個人的には思っております。

小倉：うちは選手にも、帯同審判で実際に吹いた選手がいますので、いろいろな方がレフェリーをやるという、大会の趣旨だったり現状を理解した上でやっています。もちろん勝敗に関わるので不満に思うことありますけど、それも含めてのゲームだと思っているので、何か判定に対してすごく不満を抱くというのを外に出すようなことは、選手自身も多くはなかったと思います。審判の方もルールをわかってなかったということも含め、学びの機会だと僕ら自身は思っていますので、よいように捉えたいと思います。

あと高校生だったり選手経験がある方がレフェリーをする回数を、我々指導者も増やしていかないと、大会のレベル自体を上げるのは決して簡単なことではないと思うので、そういう意味でもこういう大会の機会を利用してもらえるといいと思います。

荒川：ありがとうございました。すごく参考になりました。各地域でも、帯同で高校生審判が増えて
いるケースもたくさん聞くので、選手のレベルが上がっていく上で、審判も上がっていかないと

ないと感じました。また両監督が本当に審判をリスペクトしてくれてというのが言葉から伝わってきたので、そういう雰囲気の中で普段のリーグもできるようになるといいと思いました。

中塚：ではちょうど話題が審判、そして運営の方になってきましたので、ここから大会全体を通しての運営面について、下條さん、菅原さんから総括と今後についてコメントいただければと思います。

3. 大会全体を振り返って

1) 運営・審判

菅原：ご挨拶が遅れましたが、3 日間ご協力をいただき、おかげさまで無事大会が終了しましたことを、各参加チームの皆様、サロン 2002 の皆さんにまずは感謝を申し上げます。

去年から帯同審判にご協力いただいています。去年までは「原則として 3 級以上の審判」ということでした。どうしても 4 級になると第 3 審判もできないのでタイムキーパーしか割り当てができません。審判の割り振りが非常に難しくなってきます。今年は新潟県から強化で 5 名ほど、2 級審判員が来てくれましたので、今年は少し楽に回すことができましたが、やはり各都道府県やリーグ、各チームでしっかりと 3 級以上の審判を育て、大会に帯同することを達成していただきたいと思います。

またこの大会は審判員も勉強の場であります。選手だけでなく審判員も、ワンランク、ツーランク上のところへ上がっていただく場です。フウガドールすみだの片岡幸村くんは、帯同審判としても活躍してくれました。賀川浩賞を取った選手で、先ほど紹介いただいた地元の温泉の PR もしていただき新聞にも載りましたが、そういう配慮ができる選手なのだと感じています。

試合を通して、審判員もレベルアップしていければ、この大会をやっている意義も高まると感じています。これからも皆さんのご協力をお願いしたいと思います。

下條：いま菅原からあったように、長野県でもいま何とか 1 級審判を出そうというところで、この大会で多くのことを学ばせていただいています。後で中塚さんからあるかもしれませんが、日本代表になるような選手も出てきており、年々レベルが高くなっています。審判のレベルも上げていかなければと思います。3 級とか 2 級、またはそれを狙う若い人に来てもらい、アセッサーもつけていますので、大会で多くのことを学んでいただきたいと思います。

運営の方もいろんなことを試行錯誤しながら、円滑に回るようにしています。今回はトランシーバーを使って連携を取るようにしました。F リーグのボアルース長野からも運営のことを学んでいます。

皆さんに聞いてみたいのは、ウォーミングアップ時間です。2 階の剣道場を開放してアップをしておいていただき、試合が押した場合でもピッチ内アップを 10 分間は担保しています。この大会は 1 月で気温の低い時期にやる大会ですので、剣道場と 10 分間のピッチ内アップでいいのかというところ。順位が決まる試合については A ピッチと B ピッチのキックオフを合わせてやっていますが、このあたりについても、チーム側からのリクエストがあれば、運営側としてはお聞きしたいと思います。

中塚：出場チームにお聞きしたいということです。フウガの小倉さんと富山中部の橘さん、PROVA の大多和さん、ヴィラノーバの井上さんが出場チームとして来られています。どうでしょうか。

小倉：フウガドールすみだです。ウォーミングアップの時間は十分だと思います。10 分担保されているのであれば、特に問題はありません。剣道場からの移動の時間だけ伝えていただければストレスなくできますので、引き続き実施していただければと思います。

橘：富山中部高校の橘です。初出場で未熟だったので、選手の準備をうまくさせてやれなかった指導者の責任だと思っています。10 分に設定された中で、しっかりと選手の準備ができるように、指導力を磨いていきたいと思っています。

大田和：PROVA 大多和です。試合前のアップに関しては、最低 10 分が確保されているので、問題なくできました。引き続きそのルールでやっていただければと思います。

井上：ヴィラノーバ井上です。時間帯に関しては特に問題ありません。剣道場も暖房が効いてましたし、十分ウォーミングアップすることはできました。

下條：ありがとうございます。2 階の剣道場の状態がわからないので、そこに連絡が欲しいということも小倉さんからありました。トランシーバーを使っていますので、そういうところも設置した方がいいのかなと、参考になりました。ありがとうございます。

2) 宿泊・移動・観光

中塚：では大会そのものからもう少し広い範囲で、宿泊・移動、あるいは余力があれば地域の観光もというところについて、信州千曲観光局の近藤さんがずっと裏方で支えてくださってます。今大会を振り返って、また来年度以降へ向けて、会場でもご相談をさせていただきましたが、お考えなどお願いします。

近藤：ご参加いただきました皆さん、本当にありがとうございました。無事にできたことを大変ありがたく思っております。

宿泊の関係ですが、こちらの方で夏ぐらいに、各旅館に 1 月の 3 連休を空けてほしいと要請を出しています。それに対して OK いただいたところを使っていますが、どうしてもチームが決まるのがギリギリになります。中にはどうしても送迎が必要というチームもあり、一旦うちの方に声をかけていただいて調整をしたり、お時間がかかったりして皆さんにご迷惑をかけています。なるべくいつも同じ宿に泊まっていたら、皆さんのリクエストにお応えできるような体制をとってまいりますので、引き続きよろしくお願いします。

中塚：では宿泊などを含め、出場チームの皆さんから感想なり要望なり、そういうのがもしあればお願いします。

大多和：今回は亀清旅館さんに泊まりました。去年と同じ宿を取っていただいたので、勝手がわかりますし、旅館の方も覚えてくださっていたので、非常にスムーズに宿泊ができたと思っています。

中塚：選手たちの感想はどうでしょう。

大多和：同じところに泊めさせていただいてるので、勝手がわかってだいぶリラックスして宿泊させていただきました。若ダンナさんが外国のお方なので、コミュニケーションをとるのも楽しそうにしましたし、歓迎で缶バッチをいただいたりして、選手たちも満足して 3 日間過ごせたと思います。

中塚：良かったですね。ありがとうございます。ヴィラノーバ水俣の井上さんは熊本からの移動も大変だったと思うんですが、そのあたりの苦労話も教えていただければと思います。

井上：やはり非常に遠かったです。今回は東京経由ではなく福岡から松本の便で来させていただきました。運転がちょっと心配だったので、旅館の方に送迎していただいたのが本当に助かりました。来年はやはり東京経由の方が何かと都合がいいのかなと感じました。温泉に関しては、僕は毎朝温泉入って最高の 4 日間でした。ありがとうございます。

中塚：ありがとうございます。その東京から、フウガはいつも公共交通機関で来るんですね。

小倉：はい。我々は電車を使ってバスで駅まで送迎していただけてます。

中塚：一方で富山中部はバスを借りて…。

橘：はい。我々は観光バスで富山から。休み休み来ても 3 時間という距離です。荷物のこともありますので、長野開催であれば、そのスタイルで行きたいなと思っていますが、この時期ですので新潟の山を越えるのが大変です。何年か前も不二越工業高校さんが試合開始時刻に到着できなかったことがありましたが、そうならないように準備する必要があるなという感じです。

今回は大丈夫だったんですが、実はビエントさんの初日の試合は 15 時キックオフだったんですが、前日入りされていました。そういうリスクマネジメントは、近県だからこそする必要があるかなと思っています。

宿泊については圓山荘さんで、大変ゆったりと過ごさせていただきました。私の部屋はなんと檜風呂付きという VIP ルームでしたので、あと 7 人ぐらい泊まれたんですけど。よかったら皆さん観光で宿泊に行っていただければと思います。

私たちと名古屋オーシャンズさんが泊まったんですが、食事だけ、アスリート向けじゃない感じの揚げ物フルコースでしたので。支払金額は変えなくて大丈夫ですので、火の通った、衣が落ちたものであればありがたいなと思っておりました。

中塚：愛知県の小板さんは、今回はオーシャンズには帯同されなかったと思いますが、何か聞いておられることはありますか。

小板：愛知県の小板です。この大会、楽しみにはしてるんですけど、なかなか現地に行けなくて本当に申し訳ないですし残念です。

今回はオーシャンズ U-18 が出場させていただきました。菅原さんをはじめサロン 2002 の皆さんにも本当にお世話になりありがとうございました。私も連盟の役員を愛知県と東海で、副理事長や理事長をやりながら 20 年過ごしています。ここ数年、U-18 のカテゴリーに注目しており、東海だけでなく日本フットサル連盟も含め、U-18 とか、長野の菅原さんのところでやっている U-23 の長野オープンとか、そういった大会で若い世代が公式戦をやって成長していくのを感じています。この U-18 大会も長野の U-23 も、皆さんと一緒に尽力していきたいと思っていますところなんです。

先ほど熱く語られた決勝戦の映像をまだ見ていないので細かいところはコメントできません。残念なことにオーシャンズ U-18 はこの 3 連休、トップの全日本東海大会や、栃木でやっている U-15 の JFA 全国大会があり、いつもみている監督が U-18 のこの大会に帯同できず、選手もいつも通りのパフォーマンスが発揮できずに 1 次ラウンドで敗退したのかなと思っています。

選手と詳細な会話はしてませんが、普段一緒に練習を見ているコーチが監督代行として対応し、それなりの戦いはできたかと思います。また来年も参加できるように、名古屋オーシャンズ U-18 でがんばっていききたいと思っています。

中塚：この大会も第 1 回は静岡、第 2 回は愛知でさせていただき、静岡や、小板さんはじめ愛知の方々にささえていただきました。

近藤さんと話していたところで、来年度へ向けて、屋台のようなものが出せないか、あるいはお土産ブースみたいなものがあるとよいのではという話もしていました。補足していただけますか。

近藤：体育館の脇の広場にキッチンカーを 5～6 台並べ、観戦に来ている方々に食事を取っていただけるような形にできないかということです。それとお土産については、千曲市商工会議所の方と話をしまして、何とかかなりそうだとということです。皆さんの方からオーダーがあれば、そういう形はいくらでも取れます。

中塚：会場で応援ができる。けどずっとそこにいるとお土産を買う時間もないというような状況です。地元のお土産を会場で販売するのは地域の活性化につながると考えております。

Ⅱ．10 年間の成果と課題

1．大会出場選手の動向

中塚：残り時間が少なくなってきました。ここからは 10 年間の成果を確認し、各地域の状況を共有していきたいと思います。

メールで過去の出場チーム、リーグ担当者に依頼したのは、過去の大会に出場した選手がその後どのような道のりを歩んだのかについての調査です。代表歴や、F リーグ、海外でのプレー歴を問うもので、フォームに記入して返信してもらいました。思うように回収できていませんが、ざっとみていきたいと思います。

東北リーグからは、聖和学園フットサル部で出場した選手がボアルース長野や、仙台、大分の F リーグクラブでプレーしています。

東京からはフットボウズの回答があります。千曲開催以降は出場できていませんが、第 1 回、第 2 回大会に出場した南雲くんや岡部くんの名前があります。ちなみにいま日本代表の中心で活躍している清水和也くんは、もともとフットボウズで育ち、フウガで活躍したプレーヤーですが、彼はこの大会が始まる前の年代です。

バルドラール浦安からは 4 名の選手が挙がっています。年代別代表や F リーグのトップチームの登録選手がいます。

PROVA からは、本日ご参加の大多和さんのご子息、一虎くんの名前があります。今大会にはチームのスタッフとして来てくれた一虎くんは代表候補のサポートメンバーとなっています。

小板さんからは名古屋オーシャンズだけでなく、第 2 回大会優勝のサントスの選手についても回答してくださいました。F リーグのオーシャンズはもちろんですが、他の F リーグクラブ、あるいは海外で活躍したり代表で活躍する選手もたくさんいます。

京都からは、ガット出身で海外トップリーグで活躍する原田快選手や F リーグで活躍する選手の名前があります。

シュライカー大阪 U-18 では、シュライカー、ボアルース長野、年代別代表になった選手がいます。

今のところ集まっている情報はここまでですが、まだ提出いただいていないチーム、リーグからもリストをいただき、整理して、10 年間の一つの成果として「見える化」していきたいと考えます。

大友さん、こういう情報、いろんな意味で必要ですね。

大友：すごくありがたいです。もうちょっとお尻叩かないと。重要なデータですので。

2. 各地域のリーグ環境

中塚：もう一つは、各地域のリーグ環境についてです。冒頭でも申し上げましたが、しっかりとリーグ戦をやっているところがある一方で、やっていただけでできなくなったところなど、いろいろ聞いています。

北から順番に、現状と今後の課題、見通しなどについて紹介していただければと思います。

なおお本多さんからメールが届いていると思いますが、各リーグの今年度の、つまり終わった段階のリーグ結果について、今月中にご提出をお願いします。

荒川：北海道では 2025 年度に初めて通年リーグを開催しました。通年といってもサッカーチームを呼び込む関係でファーストステージとセカンドステージに分け、ファーストの優勝チームとセカンドの優勝チームがプレーオフを戦い、今回出場の VALIENTE が優勝しました。ここ数年出場しています。

VALIENTE は今年で解散と聞いていて、来年は出れないだろうということです。フットサルチームとして登録して出てくれています、北海道の最北端の稚内中心に活動しています。札幌市よりもちょっと南、千歳空港との間に恵庭市というところがありますが、その文教大付属高校とか、いろんな高校のサッカー部の選手にフットサル登録して出てくれているところもあります。北海道でもモデルになるようなチームです。

高校のサッカー部の注目が得られるように、2026 年度も通年のリーグをやりながら、リーグの中にワンデーの大会を入れて、高校のサッカーチームにももう少し入り込んでもらい、もうちょっとフットサル熱を伝播していくきっかけにして裾野を広げていきたいと思っています。

いつもこの 3 連休は、北海道でも全日本選手権の地域大会があり、開催地区に運営支援で行かなきゃいけません。本当は千曲の大会の空気感を味わいたいので個人的にも行きたいのですが、なかなか行くことができません。肩から荷物が下りれば、ぜひ長野に行きたいなと思っています。その時は近藤さん、菅原さんも下條さんも、よろしくお願いします。

中塚：埼玉の金子さんは耳だけ参加ということで、では東京の原さん、お願いします。

原：年末のシンポジウムの際に東京のお話をさせていただいたと思うので、皆さんご存知かと思いますが、東京の U-18 リーグは 1 部 7 チーム、2 部 7 チームで 2 回戦のリーグ戦をやっています。さまざまな問題を抱えていますが、一番大きな問題は会場問題です。東京だけで解決できず、他県にまで行ってリーグを実施しています。またそれに伴って費用が大きくなり、それを工面するのも大変です。遠くの会場まで行かなきゃいけないので参加を見送っているチームがあるのも東京の問題点として持っています。悩ましいところです。

中塚：東京、神奈川、富山については 11 月 23 日の公開シンポジウム報告書にも載ってますので、そちらをご参照いただければと思います。

では大友さん、神奈川はともかく、関東の話をさせていただけるとありがたいです。

大友：関東の場合、リーグが根付かない地域として茨城、栃木、群馬、そして山梨には埼玉から声をかけてもらい、通称北関東リーグということで、茨城から 2 チーム、栃木、群馬から 1 チーム、埼玉から 2 チームと、県をまたいでリーグ戦ができました。チャンピオンズリーグは、より強いチームの戦いの場であるのに対して、北関東リーグは裾野を広げるリーグです。フットサルはやりたいけど、県に 2 チームしかいないからリーグが成り立たない。そういうチームが栃木にも群馬にも同じようにいたというところで、県をまたいでやりましょうと。地域でチャンピオンズリーグをやってみた取り組みが地域連盟の理解を得られるところにたどり着いたのも大きかったと思います。

あと神奈川については、昨日まさにカップ戦をやっていました。派手に 18 チームで。最近、フットサルのイベントや大会ってあまり聞かないですよ。例えば「FM 横浜フットサル大会」とか。こういったイベントにもう一度フットサルが復活してくるところも期待したいなと思ってます。子どもたちにとってフットサルが身近でなくなっているの、フットサルをプレイしてもらう機会を増やすことも大事な取り組みじゃないかなと思っています。

中塚：この話の続きで小曾根さん、関西リーグも含めて京都の状況を話していただけますか。

小曾根：皆さんこんばんは。京都の小曾根と申します。先に京都から。京都では 7 チームでリーグ戦をやっています。フットサルチームが 3 チーム、高校サッカー部が 4 チームですが、高校サッカー部にスケジュールを合わせないといけないので、年間開催を目指していますが、開催時期には偏りがあります。

関西リーグの話でいうと、いま京都と兵庫にリーグ戦があって、U-18FLCC に代表チームを送っていますが、大阪、和歌山、滋賀、奈良の 4 県にはリーグ戦がないか、あっても 2 チーム程度なので代表が送れていません。シュライカー大阪などレベルの高いチームもありますので残念だなということで、関西リーグをやれへんかと。今年については埴田先生の旗振りのもとで、ワンダー大会を 2 回行ったところです。

いまは本多さんにお手伝いいただきながら、Google フォームで各チームに参加意思の確認をしているところです。できれば来年度から関西リーグを作って、この大会に関西からもうちょっと参加できるようにできたらと画策しているところです。

先ほど大会のお話の中で帯同審判のことが話題になりましたが、今年京都の代表になったガットの安川監督から、4 級しかおらんということ、大会にご迷惑をおかけしたかと思ひます。申し訳ありません。何とかせなあかんと思っています。これまでは、資格は持ってたらい、4 級でもいいとしていましたが、今年はリーグ加盟のフットサルの 3 チームには、生徒でいいので 3 級の養成を義務付けようと思っています。普段のリーグ戦でも主審は協会から派遣してもらっていますが、第 2 審判は生徒が吹きます。やはりちょっとレベルが低いですね。そのレベルを何とか上げて、試合のクオリティーも高め、生徒を 3 級にして教えながらやっていきたい。本当やったら富山県みたいに両方できるといいんですけど、なかなかそこまで指導しきれていない部分があるので、今のところ主審は協会派遣ですけれども、ゆくゆくはそういった形でやれるといいかなと思っています。

中塚：ではいまの流れで関西から。埴田さんは声が出せないということなので、本多さんでいいですかね。兵庫のあたりについてお願いします。

本多：兵庫は今年ハーバーがお世話になりました。ありがとうございました。チーム数がなかなか伸びないですけど、関西、兵庫も着々と運営しております。以上です。

橘：では北信越から橘さん。続いて長野からお願いします。

橘：富山県は 1 部リーグ 6 チーム、2 部リーグ 7 チームの計 13 チームで今年度は運営しました。全部のチームがファーストチームでしたので、静岡県と参加チーム数は並んだのですが 2 枠いただくことができました。おかげで富山中部高校が出られたところです。リーグを育てていくことが出場枠の増加につながることを改めて実感しております。

ただ状況としては、富山県を牽引してきたビエントさんの活動が今年度で終了します。次年度は単純に 1 チーム減が見込まれています。

それから部活動として成り立たなくなるチームが現れてくるのではないかなと思っています。昨年出場された伏木高校さんも、いま部員が 9 名ということで、部活動の運営が難しい状況です。これは富山県の話なので、11 月の公開シンポジウム報告書を見ていただければと思いますが、そういうことが地方では当たり前に起こっています。次年度については、富山県リーグと言ってはいるものの、以前やっていたように石川県や福井県も交えた、いわば北陸リーグのようなものも、日程調整できればやっていきたいと思います。石川県にはヴィンセント・ド・オロハクサンや遊学館高校、小松市立高校など、精力的にフットサルの活動をされている U-18 年代のチームがあります。福井県にも北陸高校フットサル部が頑張っていてやっておられますので、お声掛けして実現できればと思います。

富山県の現状として、通年でフットサルだけやっている選手がいませんので、サッカーとのカレンダー調整が大事になってきます。次年度はサッカーの新人戦、11 月に行っていたものを廃止する方向です。フットサルへの流れが出てきたなというところです。私が高体連サッカーのところもやっていますので、そういう流れを作っています。いま小曾根さんが言われたように、審判育成については、各チームから 2 名以上審判資格を取得していただくことでリーグ運営をしています。今年に関しては 60 人の高校生が審判資格を取得しています。逆に言うと、主審も拙い子がやっていますが、育てる素地ができていますので、温かい目で選手と審判を育てていきたいと思っています。指導者については、今回出させていただいて育成面で物足りなさを感じましたので、まず私が 2 月にフットサル C ライセンスを受講して、より深みにはまっていこうと思っています。

富山県の動きでいうと、サッカーの県トレセンの子たちにフットサルトレーニングを導入することを、今年度からサッカーの技術委員会で推進しています。フウガドルすみだの小倉さんに来ていただき、1 月に 1 回目を 2 日間行いました。今回は 2 月 7～8 日に 2 回目のトレーニングがあります。選手たちの成長を促し、さらにフットサルの経験を少しでもした子たちが U-18 年代に上がってくことを期待しているところです。さらに U-18 の選抜活動につながれたらと考えているところです。

北信越の話をする、北信越フットサル連盟で U-18 リーグを連盟事業としていく流れを聞いています。昨年はプレリーグという形で集中開催で行われましたが、通年化に向けてはスケジュール調整をして参加できるチームが出てきたらということがあります。北信越ではやはり新潟県勢、帝京長岡高校などが出てくると、構図がガラッと変わってくるのかなと思っています。

今回、ボアルース長野の小林さんとも話しましたが、長野県のチームとも一緒に高め合っていけたらなと思っています。日常を上げていかないと関東には勝てないということがわかりましたので、ぜひ進めていきたいと思っています。

下條：長野県もフットサル部と名乗って活動しているチームが 3 チーム。そこに加えてボアルースの U-18、U-15 がいますけども、そこもフットサルでは人数が集まらないということで、サッカーをやしつつ、サッカーから人を集めるような活動をしています。今回の長野県の大会も、その 3 チームプラスボアルース、さらに高校サッカーを終えたチームから集めたチームでリーグ戦を行いました。代表となった 83 スピリッツが、高校サッカーを終えて、元々やっていたメンバーが集まってつくったチームです。そこが長野県代表になったということで、長野県全体のレベルアップを含めたリーグ化をしていかなきゃいけないと思っています。ネックになるのは会場確保と会場費ですね。そこで参加料が高騰している。テーブル代も高いので、そこもネックになってるかなと思います。

先ほど橘さんに話していただいたように、北信越では去年、北信越リーグのプレ大会をやりました。今年度もやろうという話にはなっていますが、会場確保をどうするか、日程をどうするかが課題です。いま春先の会場を調整していますので、どこか取れたところでやることになるかと思っています。4 月以降に U-18 のリーグ日程も決まると思います。

中塚：では東海の静岡、愛知、そして九州の熊本。ここまで続けていきましょう。

大多和：静岡県リーグは今年、1 部リーグ 7 チーム、2 部リーグ 6 チームでしたけど、2 チーム出しているところが多かったものですから、クラブ数としてはちょっと少ない感じです。県リーグはそれでやり、今度新人リーグも立ち上がり、そちらは 1 チーム出しで 10 チーム集まり、1 月、2 月、3 月に行われます。ある程度活発にはできてるのではないかなと思います。

内情について詳しくはわからないんですが、うちはフットサルだけで活動してる子たちなので、こういうリーグが盛り上がって、試合がたくさんできるような状況が続けばいいなと願っています。協力できるところは協力してやっていきたいなと思っています。

小板：愛知県の U-18 リーグについては以前にもお話したかと思いますが、10 チームはいかなくても、以前は 7~8 チームでやっていたリーグ戦が、ここ最近 4~5 チームに減少している状況です。今年度についてはリーグ戦が始まる前に、サッカーをやっている高校生の大会を名古屋オーシャンズさんの協力の下で 3 日間開催し、そのうち 1 チーム、日本福祉大学附属高校が、サッカーをやりながらですがフットサルにも興味を持ち、リーグ戦に参加してもらったところです。今後そういった、サッカーチーム対象の高校フットサル大会を継続し、フットサルも面白いんだよというところを訴えていきたいと考えてます。

今年入った日本福祉大学附属高校の選手の一人がフットサルに非常に興味を持ちまして、名古屋オーシャンズの練習に参加したいとなり、JFA の指導部の目に留まり、U-18 の代表候補にも選ばれたという、びっくりするようなニュースも今年度入ってきました。サッカーからフットサルの、愛知県から日本代表候補につながっていくようなリーグにできていけばいいなと考えます。

審判の話についてですが、愛知県としてフットサル審判の平均年齢が上がっており、審判員が減少しているのが実情です。審判委員会の話になりますが、新しく審判員を、若い年代から育てていかなきゃいけないという課題もあります。U-18 愛知県リーグについては、主審、副審、第二審判は、各チームの選手、スタッフも含め、チームで実施している状況です。

あと大きな話で、地域の U-18 リーグがなかなかできない状況です。静岡県と愛知県がリーグ戦を年間通してやっているの、東海の地域 U-18 リーグができればいいという話は上がっています。

井上：うちは今年チームを立ち上げたばかりなので、熊本県リーグに対して私が話をするのはどうなのかなと思うんですが。熊本の場合は今年度、前期を熊本だけで行いました。そのチャンピオンを U-18FLCC に推薦するという事でリーグ戦を行いました。後期に関しては、鹿児島島のフットサルチームも含めて「肥薩リーグ」を今年度から立ち上げ、いまリーグ戦を行っている最中です。近い県同士、お互いのレベルを上げましょうということで、今までおられた先生方、フットサルチームの方々が企画・運営していただいています。審判に関しては、全チーム了解のもと、リーグ戦は高校生が全部吹く。最初に全チームの審判講習会をして、リーグ戦を行いました。ただチャンピオンズリーグの帯同審判は 3 級以上ということで、今後の課題として上級ライセンスを取るような方向で、審判部とも話をしないといけないと思っています。

中塚：ありがとうございます。ここにいらっしゃる方々の地域リーグの状況をお話いただきました。11 月のシンポジウムでも出てきましたが、地域ごとの課題、地域ごとの対策があります。そのあたりの情報、いいアイデアをお互い出しあって、より良い方向に持っていければと思います。

予定の 9 時になってしまいました。サロン 2002 のメンバーで、いつも動画配信してくださっている上田市在住の井上俊彦さん。神奈川の茅野英一さんは神奈川県庁に長らく務められた方ですが、茅野さんのおかげで長野県の後援が得られているところでもあります。磯和明さんは、自己紹介にも書か

れていますが総合型のクラブを運営されている方です。発言の時間をとることはできませんでした
が、時間があれば残って、引き続きオンライン懇親会で話ができればと思います。

最後は駆け足になってしまいましたが、最後に菅原さんから何かひと言お願いします。

菅原：来年の日程はもう決まっています。1月9日から11日です。また全国から強豪が集まってくれる
のを楽しみにお待ちしております。それと、今年は長野県の代表にならなかったチームも、ボールパ
ーソンなど運営面で参加し、高いレベルの試合を目の当たりにすることができ、嬉しく思っていま
す。これが長野県のレベルアップにつながっていくように、また我々も発想を変えていきたいと思っ
ています。運営の方も、下條委員長やボアルースの櫻井さんとも検討しながら、より良い運営ができ
るようにしていきたいと思っています。これからもよろしくお願いします。

中塚：では本多さんから、報告書の件について最後をお願いします。

本多：私どもが作った大会がこういう形で、運営の皆さん、チームの皆さんでいい大会にしていただ
いて本当にありがとうございました。

いま大会報告書を作成しており、各リーグの情報を送っていただいています。すでにお送りいただい
ているところもありますが、まだのところは至急、お送りいただければと思います。

中塚：時間が経つのがあっという間でした。これにて一旦中締めとさせていただきます。またこうい
う機会を改めて作りますので、今後ともよろしくお願いいたします。

ありがとうございました。

以上。オンライン懇親会に続く
(文責：中塚義実)